

研修 テーマ	生徒が自ら考えを進め表現することができる授業を目指して － 考えを形成する過程での活動の工夫を通して －
-----------	---

模擬授業Ⅱ（授業実践Ⅱ） 第1学年国語科学習指導案

指導月日 令和元年10月24日

所属校名 石巻市立河南東中学校

氏名 三浦 裕太

1 単元名「根拠を明確にして書こう 意見文」（東京書籍 新編新しい国語1）

2 単元の目標

- (1) 構成を工夫したり根拠を明確に示したりして、意見を分かりやすく伝えようとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 自分の意見が適切に伝わるように、根拠を明確に示して意見文を書くことができる。【書くこと】
- (3) 意見文を互いに読み合い、テーマの捉え方や根拠の明確さについて、意見を述べたり自分の表現の参考にしたりすることができる。【書くこと】
- (4) 文章の構成を明確にするための接続表現について理解し、適切な言葉や漢字を用いて表現することができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3 単元観

本単元は、中学校学習指導要領第1学年「B書くこと」の指導事項「ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。」及び「オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。」を受けて設定した。

これまでに、「構成を考えて書こう」で自分を紹介する文章を書くために材料を集め、集めた材料を分類するなどして整理し、伝えたい内容にふさわしい文章構成で書く学習を行った。そして、本単元では、実体験や資料を活用して根拠を挙げ、根拠を明確に示して意見文を書くことを学ぶ。

本単元は、生徒たちが意見を書いて伝える際の構成や根拠の示し方を理解し、ある事柄に対して各自が考えを持った上で、テーマに対する主張や根拠が相手に伝わるよう意見文を書くことを目的としている。学習を通して、生徒たちは根拠の明確な示し方を学び、テーマに示された事柄を十分に検討した上で、自分の立場を決め、根拠を挙げて意見文を書く。根拠を明確に示す重要性を学び、どの部分が主張または根拠であるかが明確になるように文章構成を考えることで、分かりやすい意見文を書くことにつなげる。さらに、様々な視点からテーマに示された事柄を検討し、複数の視点を取り入れ、考えを整理して意見をまとめ、生徒自身の実体験やテーマに関連する資料から根拠を挙げることで意見文が説得力のある文章となるようにする。学習を通して生徒たちが主張や根拠について考えて意見をまとめ、その意見を相手に明確に伝える文章を書くことができると考える。

4 生徒の実態〔第1学年1組 男17名 女12名 計29名〕

(1) これまでの授業の取組

5月に実施した意識調査では、文章を書くことに対して否定的に回答した生徒が58.6%であった。「文章を書く際に難しさを感じることがあるか」という問いに対して、「ある」と回答した生徒は75.9%に上った。その生徒たちに難しさを感じることを、複数回答の形式で具体的に挙げさせたところ、「書く内容が思いつかない」「文中に使用する言葉（言葉遣い）」という回答が最も多くそれぞれ45.4%、次いで「考え方や内容が間違っているのではないかと不安になる」が40.9%となった。

文章を書くことに難しさを感じている生徒が多いが、自分自身で、なぜ文章を書くことに苦手を感じるのかを把握している生徒も多いことが分かった。また、生徒たちが書く活動へ取り組む様子から、文章を書く際に考えをどのように進めていくか、書く内容をどのようにまとめていくかに課題が見られた。

これに対して第Ⅰ期の授業実践「構成を考えて書こう 『私』の説明文」では、生徒たちが考えを持って意見文を書くことができるようにするため、生徒が自分に関する事実と、それに対する考えを短文で記述させることから『私』の説明文」を書くことに取り組ませた。その後、生徒たちが書いた短文へ他者から質問を受けることと、それに回答することを繰り返し行い、説明文を書くための材料を集めさせた。そして、質問事項や回答の中から言葉を選び、短文に付け加え『私』の説明文」を書かせた。書く内容をまとめていく過程での質問事項と回答は視覚的に把握できるようにした。さらに、生徒たちがその考えに自信が持てるよう、交流を通して書く材料を集める場面、考えを話したり他者の発言を聞いたりして考えをまとめる場面を設定した。これにより、全員が初めに短文で書いた事実と考えから、自分自身に関する伝えたい事柄に様々な材料を付け加え、その事柄を複数明記した『私』の説明文」を書くことができた。一方で、他者との交流時はメモを取らせたが、取ったメモを基に筋道が通った文章を書く点や複数挙がった材料を読み手に伝わるようにまとめていく点に課題が残った。

(2) 標準学力検査の結果（令和元年5月9日実施）

①観点別正答率(%)

観点	学級平均正答率	本校1学年平均正答率	全国平均正答率
話す・聞く能力	60.8	58.7	57.6
書く能力	73.4	69.5	71.8
読む能力	70.9	68.7	66.7
言語についての知識・理解・技能	70.2	66.4	69.5

②記述式小問正答率(%) ※一部抜粋

小問内容		正答率		学級無解答率
		学級平均（内完答率）	全国平均	
A	話し合い内容の文章とメモを比較して、不足している情報を指摘する。	44.8(34.5)	44.2	3.4
B	指定された文字数で書く。	75.9	73.8	3.4
C	3段落構成で文章を書く。	72.4	67.9	3.4
D	自分の立場を明確に書く。	96.6	91.1	3.4
E	自分のとった立場の理由を書く。	89.7	88.2	3.4
F	文章の内容に沿ったまとめを書く。	86.2(82.8)	80.4	3.4

標準学力検査の結果から、概ね学習内容が定着している生徒が多いことが分かる。意見文を書く際に自分の立場とそう考えた理由を含めて表現することができる生徒も多い。しかし、小問Aの結果から、不足している情報を指摘することに課題があることも分かった。この点においては、本単元の前に設定されている、説明的文章「スズメは本当に減っているか」（読むこと）の学習においても見られた。生徒たちは、文中の根拠を図や表と併せて読み取り、主張に迫ることができた。しかし、それぞれの根拠の不足している点を指摘する学習には難しさを感じていた。

以上のことから、生徒たちは、示されたテーマについて、立場とその理由を考えることはできるが、根拠を吟味したり不足している点を把握したりすることを苦手としていることが分かった。生徒たちは、持った考えを違う立場や自分とは異なる考え方があることを踏まえ、自分の意見としてまとめたり相手を意識して分かりやすく伝わるよう表現したりしていくことに課題があると推察する。

5 指導観

学習指導要領の内容及び生徒の実態から明らかになった事柄から、以下のような手立てを講じ本単元の指導に当たりたい。

本単元の第1時は導入として、テーマを十分に検討し、それぞれの立場の長所と短所を挙げて自分の立場を決め、そのように考える根拠を示すという、意見文を書く手順を指導する。その際に意見文の例文を提示し、意見文の構成と段落同士をつなぐ接続表現について理解させる。また、意見文の例文の文末表現や使用されている語句に着目させ、事実と考えを区別させながら意見文を読ませる。これにより、自分の考えのまとめ方、表現の仕方を生徒たちに理解させる。

意見文の書き方や構成を学んだ後に、全員共通のテーマで意見文を書く学習活動を行う。意見文のテーマは立場が示されたものではなく、生徒たちの身近な課題に対して複数の解決策が考えられるものにする。生徒たちの実態から、立場が明確に示されていないテーマに対して、主張を決め、文章を書くことに難色を示す生徒が多いと思われる。そのため、本単元の学習前にテーマを伝え、テーマに示された課題に対して、考えられる具体的な解決策を挙げさせる。生徒たちから挙げられた具体的な解決策を提示することで、抵抗感を減らし、生徒たち自身で主張と書く内容を考えていくことができるようにする。さらに、少人数グループでそれぞれの解決策の長所と短所をまとめさせた後、班員の構成を変えて長所と短所を交流させる。これらを通して、様々な視点からテーマを捉え、生徒自身が明確な考えを持ち、自ら考えを進めて意見文を書くことができるようにする。

具体的な解決策を示して、少人数グループで交流し、生徒たちに考えを持たせた後に、主張と根拠を書かせる。根拠は、生徒たちが経験したことやこれまでの生活で見たり聞いたりした事柄の中から挙げさせ、主張との関連性を意識させまとめさせる。さらに、生徒たちが書いた根拠は、教師による添削や他者との交流を通して詳細にする。最終的に意見文を書く際は、段落構成を意識して、根拠を明確に示した意見文を書くことができるようにする。

以上の手立てを通して、生徒たちが自分で考えを進め、考えを十分に表現した、読み手を意識した分かりやすい意見文を書くことができるようにしたい。また、完成した意見文は互いに読み合い、根拠の明確さや意見と根拠との関係について、意見を述べたり自分の表現の参考にしたりさせたい。

6 研修テーマとの関連

生徒の実態とこれまでの実践の課題に対し以下の取組を通して解決を図りたい。

(1) 様々な視点から考え、書くための材料を集める取組

テーマの検討を全体で行った後に、複数の解決策について、長所と短所をまとめさせる。長所と短所は個人で考えて付箋に記入し、少人数グループで付箋を共通点や相違点によって整理する。その後、班員の構成を変え、長所と短所を交流させる。この少人数グループでの交流を通して、複数の解決策とそれぞれの長所、短所を踏まえて十分に検討された考えを持たせるとともに、書く材料を集めさせたい。

(2) 生徒たちの主体的な表現に向けた取組

二回のグループでの交流を通して、生徒たちは複数の解決策の長所、短所を知ることになる。その長所と短所を判断の基準を持って取捨選択し、意見文の内容をまとめさせる。これらを通して生徒たちの主張と意見文の内容は、確かな考えを持って決めたものだということを実感させる。十分に検討された明確な考えを生徒たちに持たせることで、考えを意見文として読み手へ伝える意欲を引き出し、より分かりやすく伝えるために自分の表現を意図的に工夫したり、内容や言葉を読み手への効果を意識して選択したりすることへとつなげていきたい。

(3) 考えや意見を分かりやすく表現する取組

意見文の構成、接続表現や文末表現等については、既習の説明的文章での学習内容を振り返って確認する。既習事項を振り返ることで学習のつながりを意識させたい。また、少人数グループでの交流の際はメモを取るよう指示する。メモを基に、主張と根拠の関連を意識してメモから適切な言

葉を選択させ、選択した言葉のつながりを考えて文章を構成させる。これらを通して、生徒たちが課題に対して持った考えを筋道が通った文章として書くことができるようにしたい。

7 単元の指導と評価の計画（6時間扱い 本時3／6）

時間	単元	○学習活動	評価規準	指導上の留意点
1	根拠を明確にして書く 意見文	○ 学習目標を確認し、学習の見通しを持つ。 ○ 教科書p110の「問題を検討する」を通して、意見文を書く手順を理解する。 ○ 文章の構成を明確にするための接続表現を理解する。	【書】 根拠の持つ説得力と根拠を明確に示した意見文の書き方を理解することができる。（観察・ノート） 【伝・国】 文章の構成を明確にするための語句や接続表現について理解することができる。（観察・ノート）	○ 学習の目標と単元を通して身に付けたい力を生徒たちに示し、各時間のつながりを意識させ学習に取り組ませる。 ○ 意見文を書く手順に加え、意見を述べる際に根拠を示す必要性を理解させる。 ○ 生徒たちに例文を示し、構成と使用している接続表現等を確認させる。また、意見文で用いられている事実と考えの部分の表現についても確認させる。
2		○ 意見文のテーマを確認し、テーマに示された内容について検討する。 テーマ：「通学路に落ちているごみをなくすためにはどうすればよいか。」 ○ 班毎に一つの解決策について長所と短所を整理する。	【書】 少人数グループでの長所と短所の交流を通して意見文を書く材料を集め、材料を整理することができる。（ノート）	○ 生徒たちに本単元の学習前にテーマに対する具体的な解決策を挙げさせておく。 ○ テーマの内容を十分に読み取り、原因や解決すべき点などについて検討させる。検討が必要な点をいくつか示すとともに、生徒たちからも出させ、全体で確認させる。 ○ 班毎に一つの解決策について長所と短所をまとめさせる。個人で長所・短所を付箋に記入した後、グループ内で交流をする。
3（本時）		○ 前時に各班で整理した長所と短所を基に、それぞれの班が全ての主張について検討できるよう、班を編成し、交流する。 ○ 意見文の立場を決め、意見文に書く内容をまとめる。	【書】 テーマに示された課題に対する解決策の長所と短所を整理し、様々な視点から自分の意見をまとめることができる。（ノート）	○ 1つの班で、前時に挙げられた全ての主解決策について検討ができるよう、第2時の班活動後に本時の班編成を伝えておく。 ○ 班での交流で挙げられた質問や疑問は生徒が立場を決める際に検討する視点とするため、全体で共有する。 ○ 班活動で話し合った内容はメモを取らせる。メモを基に主張と根拠の関係を意識させ、自分の考えをまとめさせる。
4		○ 意見文の構成を考え、主張、根拠、結論の段落ごとに書く内容をまとめる。	【書】 自分の考えの根拠を吟味し、読み手に根拠が明確に伝わるように段落を構成することができる。（ワークシート）	○ 意見文の基本的な構成（主張、根拠、結論）を示す。それぞれの内容は短文で書かせ、添削と助言を通してまとめさせる。 ○ 根拠に当たる部分については、生徒たちの実体験から具体例を挙げたり、文章を引用したりしながらまとめさせる。
5		○ 前時までの班活動を基に意見文を原稿用紙に書く。 ○ 原稿用紙に書いた意見文を互いに読み合い、根拠の明確さや意見文の説得力、適切に語句が使用されているかを確かめ合う。	【関】 構成を工夫したり、根拠を明確に示したりして意見を分かりやすく伝えようとしている。（観察・意見文） 【書】 意見文を互いに読み合い、根拠の明確さや意見と根拠との関係について意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすることができる。（観察・意見文）	○ 意見文を確かめ合うポイントを生徒たちに示し、読み合わせる。 ○ 意見文の内容とともに、表記や語句の使い方、叙述の仕方などについても確かめ合わせる。 ○ 次時の学習に向け、書く内容を整理させる。
6		○ 前時までの学習を基に、四百字以内で意見文を清書する。 ○ 完成した意見文を読み合って、感想を交換する。	【書】 自分の意見が適切に伝わるように、根拠を明確に示して意見文を書くことができる。（観察・意見文） 【伝・国】 文章の構成を明確にするための接続表現について理解し、適切な言葉や漢字を用いて表現することができる。（観察・意見文）	○ 班で互いの意見文を読み合って、根拠が具体的に示されている部分、分かりやすい文となるよう工夫された部分などについて、具体的な個所を示しながら感想を述べさせる。 ○ 班で評価を行った後に、全体でも各自の意見文を評価した結果を共有する。 ○ 自己評価を行い、学習の振り返りを行わせる。

8 本時の計画

(1) 目標

課題解決策の長所と短所を整理して、様々な視点から検討し自分の意見をまとめることができる。

【書くこと】

(2) 本時の指導に当たって

本時は、テーマには様々な捉え方があること、それぞれに長所と短所があることを知り、それらを踏まえてテーマに対する自分自身の考えを持って主張を明確にする学習を行う。前時にテーマにおける課題の解決策について、各グループが異なる解決策を担当して長所と短所をまとめた。本時は、各グループでまとめたそれぞれの解決策の長所と短所を持ち寄り交流する。交流を通して新たな気づきを得て、様々な視点から自分の考えを進めていくことができるようにさせたい。明確な考えを持つことで、自ら考えを進めてテーマに対する自分の意見が明確になり、主体的に根拠を吟味して意見文の内容をまとめたり、根拠を明確に示す工夫を行ったりすることへとつながっていくと考える。また、それぞれの長所と短所を交流した後に、改めてそれぞれの解決策について班毎に検討させる。各班の話合いが十分になされるよう、検討する視点は全体で共有する。これにより、生徒が決めた主張が十分に検討を行ったものであると実感させるとともに、検討内容を基に、長所と短所から適切なものを選択して根拠を挙げさせたい。

(3) 指導過程

段階	学習活動・学習内容 ・予想される生徒の反応	形態	○指導上の留意点 ●教師の支援	評価の観点 評価の方法
導入 5分	1 前時の学習内容を振り返る。 自分の意見を明確にし、主体的に根拠を明確に示して意見文を書く。 3/6 ・前時に検討した具体的な解決策 (1) 清掃活動をする。 (2) 学級、地域へ呼びかける。 (3) ごみ箱を設置する。 (4) ポイ捨て禁止の看板を設置する。 2 本時の目標を把握する。	一斉	○ 前時、学校への提案「通学路に落ちているごみをなくすためにはどうすればよいか。」というテーマで班活動を行ったことを振り返る。 ○ 目標をノートに記入させる。 ○ 前時の学習で、班毎に長所と短所を整理した用紙を班員分印刷し、配付する。班活動の際にそれを基に一人ずつ発表させる。	
	テーマに対する自分の主張を決め、それぞれの解決策の長所・短所から意見文の根拠を考えよう。			
展開 35分	3 一つの班で、前時に検討した全ての解決策について交流できるよう班を編成し、前時に話合った内容を交流する。(20分) 班をつくって、前の時間に整理したそれぞれの解決策の長所と短所を発表し合いましょう。発表を終えたら、それぞれの解決策についてももっと考えてみたいことを話し合ってみよう。 〔(1) 清掃活動〕 ・ 清掃活動を行うメンバーはどのように決めますか。 ・ 通学路はかなりの広範囲になる。清掃活動を実施する時間を確保できるだろうか。 ・ きれいにしようとする意識を持ってもらうことはよいと思う。もっと多くの人に意識してもらう方法はないだろうか。	グループ	○ 班編成は前時に指示をしておき、それぞれが集まる場所を指示する。 ○ 時間は発表と、それぞれの解決策の検討を含めて一人5分程度とする。 ○ それぞれの解決策に対して班員から挙げられた疑問点や考えるべき事柄は発表者のみでなく、班員全員で考えるよう伝える。 ○ 検討した内容は、導入時に配付した用紙にメモを取るよう指示する。 ● 一人の発表が終わった時点で、各班で検討事項として挙げられた事柄を全体で共有し、話合いの視点を生徒たちにつかませる。 ● 話合いの視点は黒板に掲示して、話合いの活性化を図る。 ○ 全体で話合いの視点を共有した後は各班で活動を進めていくよう指示する。教員は目安となる時間になったら学級全体に伝える。	

	4 班活動を基に、テーマに対する各自の立場を決め、根拠を考える。(15分) 班で話し合った内容を基に、テーマに対する立場を決めましょう。また、長所と短所を基に、どのような根拠を挙げて意見文を書くかを考えましょう。 ・ 立場：看板設置。 ・ 内容1：目立つものを設置することで通学路を利用するたくさんの人に伝えることができる。 ・ 内容2：常に設置しておくことができるため、継続してごみを捨ててはいけないことを訴えることができる。	グループ	○ 個人の学習活動ではあるが、形態は班を作った状態で行う。 ○ 班員の話し合いのメモを参考にしてどのような根拠を挙げるかを決めていくことができるよう、机間指導で助言を行う。また班員から助言を求めてよいことを伝える。 ● 机間指導を通して、生徒たちがノートに記入している内容を添削し、根拠をまとめさせる。 ● 書き進めていくことに難しさを感じている様子の生徒には、短文で記入させ、教師が質問を行い、内容を広げさせる。	【書】テーマに示された課題に対する解決策の長所と短所を整理し、様々な視点から自分の意見をまとめることができる。(ノート)
終結10分	5 今日の振り返りをノートに記入する。(10分) 今日の学習の振り返りをノートに記入しましょう。 ・ いろいろな意見を聞いたり、班のみんなで考えたりすることで、自分の考えがまとまった。 ・ テーマに様々な視点があること分かった。見落としていることがないかもっと考えたい。 ・ 意見が伝わるよう、言葉を選んでまとめることができた。今日の学習を基に意見文を書きたい。 6 次時の学習内容の確認をする。	個別	○ 本時の学習目標の達成度と、学習の中で自身の考えを持つまでの経緯を振り返らせ、生徒自身に学習の成果を実感させたい。 ○ 次の時間に本時の学習を踏まえて意見文の構成を考え、各段落の内容をまとめていくことを伝える。	

(4) 本時の評価

評価観点	評価基準	大変満足できる (A)	努力を要する生徒への手立て (C)
【書く能力】			
テーマに示された課題に対する解決策の長所と短所を整理し、様々な視点から自分の意見をまとめることができる。		複数の解決策の長所と短所、班の交流の中で挙げられた新たな視点などを適切に取捨選択し、自分の立場を決めて意見文の内容を的確な言葉を使って書くことができる。	自分の立場を決めさせ、班での交流の中から得られた長所やキーワードを挙げさせ、教員が助言したり、質問をして生徒の考えを引き出したりし、意見文の内容をまとめさせる。

(5) 準備物等

- ①生徒準備物 教科書、ノート
- ②教師準備物 教科書、座席表、配付物（前時の学習で長所と短所を整理した用紙）

(6) 板書計画

今日の振り返り	根拠 ・ ・	立場…通学路に落ちているごみ(主張)をなくすためには…	話し合いの視点 ○自分たちで実現することは可能か。 ○ごみがない状態を持続することはできるか。 ○生じるデメリットはどのようなものがあるか。	テーマに対する自分の立場を決め、どのような根拠を挙げて意見文を書くか考えよう。	意見文 自分の意見が適切に伝わるように、根拠を明確に示して意見文を書く。 根拠を明確にして書こう
---	---	--	--	--	--